

名古屋大学大学院医学系研究科地域在宅医療学・老年科学（老年内科）

梅垣 宏行

（日老医誌 2024；61：90-92）

名古屋大学老年科学教室は、1979年に故・葛谷文男先生を初代教授として開講され、高齢者医療・老年医学領域を専門分野とする教室として45年の歴史を持ちます。1993年より2007年まで井口昭久先生が二代教授を務められたのち、2011年在宅管理医療部と合併し、地域在宅医療学・老年科学分野となり、三代教授を葛谷雅文先生が務められました。そして、2022年12月に四代教授として梅垣宏行が着任いたしました。これまで多くの先輩方が築いてこられた教室の伝統をさらに発展させるべく、診療・研究・教育に日々精進しております。

本教室は、現在、中嶋宏貴講師（病棟医長）、藤沢知里講師、渡邊一久病院講師（外来医長）、山田洋介助教、地域連携・患者相談センター鈴木裕介病院准教授、小宮仁病院講師（医局長）、卒後臨床研修・キャリア形成支援センター金聖泰病院助教および錦見弘子医員、田島富彦医員、田森雄人医員で構成されています。名古屋大学の国際連携校のアデレード大学の老年医学教室にjoint-degree programで留学していた坂井智達先生も先日帰国し、元気に診療研究に従事しています。また、名古屋大学の学部横断的な研究機構である未来社会創造機構の所属として、井上愛子特任講師が地域コホートの研究などに従事しています。専門医資格として、老年科専門医8名、認知症専門医6名、糖尿病専門医2名、泌尿器科専門医1名と幅広い資格を持った医師が在籍しています。

当科は、病棟で17床をもち、入院患者の7割以上が緊急入院で、入院患者の平均年齢は85歳以上で、フレイルで多病な患者さんの診療を行っています。コロナ禍

によって一時は外来患者数・入院患者数ともに大きく減少しましたが、現在では入院・外来とも、ほぼコロナ禍前の状態に戻ってきて忙しくなっておりますが、チームワークよく診療をしております。すべての症例を教員と医員のペアで担当して、医員の先生たちにとって診療技量の研鑽を積みやすい環境になっています。当科は、医学部学生の臨床実習と初期研修医のローテーション研修のどちらも必修となっており、医学生と初期研修医の全員が老年医学の現場を経験しています。当科の入院患者は、マルチプロブレムの患者さんばかりで、研修医及び学生にとって良い修練の場となっております。病院全体の入院患者を対象にして数年前より取り組んできました認知症ケアサポートチームの活動もすっかり院内に定着し、多数の依頼を受けて他診療科の先生方やナースたちに頼りにされる存在になっています。また、ある診療科に入院された80歳以上の患者さんに対して当科が診察することで老年医学的問題点を早期に発見介入するという新たな試みも始めております。当科では高齢者総合機能評価(CGA：Comprehensive Geriatric Assessment)等を用いて包括的診療に努めており高齢者に最適と思われる診療・ケアの探求を行っています。

外来診療においては、内科外来のなかで老年内科として、毎日2～3診を設けています。概ね30名/月前後の初診患者さんにおいでいただいております。認知機能低下の方やフレイル、食欲低下など多彩な背景の患者さんの診療を行い、院内の他診療科からの診察依頼も増えてきています。当科には臨床心理士も3名在籍しています。認知機能の評価のために、臨床心理士が神経心理検査を90分かけて行う検査枠も設けて、きめ細かな認知機能

名古屋大学大学院医学系研究科地域在宅医療学・老年科学（老年内科）

連絡責任者：梅垣宏行 名古屋大学大学院医学系研究科地域在宅医療学・老年科学（老年内科）〔〒466-8550 名古屋市昭和区鶴舞町65番地〕

e-mail: ro-hisyo@med.nagoya-u.ac.jp

doi: 10.3143/geriatrics.61.90



同門会にて

評価を実施して診療を行うことを心がけています。また、フレイル予防教室も開催して、フレイルの基礎知識の習得、運動・栄養の指導などを行っています。

研究面では、医局員たちによって活発な研究活動が展開され、国立長寿医療研究センター・東大・阪大との共同による入院レジストリー研究、外来患者のデータ集積、訪問診療・老健における研究など、老年医学に正面から向き合った研究を実施しています。特にJ-HAC (Hospital-Associated Complications) 研究と名付けた多施設共同入院レジストリーは既に1,200例以上の登録を得て今後様々な解析が行われる予定です。診療のデータ収集のサポートをしてくれる看護師も在籍し臨床的な研究のサポート体制も構築してきました。

高齢者診療の様々な settings のデータを収集することによって研究基盤として、大学院生などが診療において抱いた臨床的な疑問の解決につながるような研究を可能にするような環境を整えています。また、地域の自治体にご協力をいただき、地域在住の高齢者のコホート研究なども行う一方で、海外や企業との連携による研究の準備もすすめているところでもあります。今後も老年医学の進歩に貢献できるような研究を実施してまいります。

当教室では、質の高い診療・研究を目指す一方で、「働き方改革」の一環として、症例検討・医局会を業務時間内に実施するなど、できるだけ働きやすい環境も実現し

たいと考えています。研究のためのミーティングなどは、どうしても診療後の「時間外」に行わざるを得ませんが、オンラインの活用により自宅などからでも参加できるようにし、子育て世代でも参加しやすいように配慮をしています。

老年医学会の活動としては、東海支部の事務局機能を持ち、毎年の東海地方会の事務的なサポートを担当しています。医局秘書の武藤理江さんが、いつも手際よく事務処理をしてくれるのをご存じの学会員の先生もおられることと思います。本年度の東海地方会は、国立研究開発法人国立長寿医療研究センター 病院長の近藤和泉会長のもと、10月21日にハイブリッド形式で開催され、教育企画・シンポジウム・特別講演と18題の一般演題の発表があり、234名のご参加をいただきました。来年度は、教室の梅垣が会長として東海地方会を開催する予定です。また、東海支部として、2011年度より毎年3月に高齢者医療研修会を開催しており（2020年度のみCovid-19のため不開催）、事務・講師などを教室で担当しています。講師については、毎年多くの学会員の先生方にご協力を頂いており、感謝申し上げます。

当教室では、オンラインの勉強会の開催も活発に実施しており、学生・研修医向けの勉強会を年2回（計11回）開催しています。さらに昨年から非専門医向けの高齢者診療スキルアップセミナーを開始し、既に5回を数えます。これらのオンラインの勉強会は、事前登録を頂

ければすべて無料で参加いただけます。教室のホームページ (<https://www.med.nagoya-u.ac.jp/geriatrics/>) では毎月ニュースを更新して、教室員の活動の紹介や勉強会の開催・配信などの告知も行っていますので、是非ご覧ください。

我々は、大学の老年医学専門教室として、臨床・研究・

教育をさらに充実させ、老年医学の魅力を発信していきたいと考えています。それによって、より多くの新たな人材を教室に引き付け、さらに医局の臨床・研究・教育が充実するという良い循環になっていくように、医局員の皆とともにさらに努力を続けてまいりたい所存です。今後とも当教室をよろしく願います。